

幼稚園での観察学習と日誌指導の授業実践と効果

—— 学生の主体的な学習を重視した教育実習指導の検討 ——

三 澤 恵

要 旨

本研究は、教育実習指導の授業内容と観察学習の効果を考察することを目的とした。2015年度の課題であった授業時間の確保と実習における身だしなみや姿勢、日誌指導などを意欲的な学びにするために、2016年度は授業時間と回数を変更し、幼稚園での観察学習と日誌指導を一貫して行った。観察学習では、学生が記述した記録から指導項目が「基本的な記述方法」「記録の不備や不足」「専門的な保育用語」の3つに分類された。また、身だしなみや姿勢は学生が意味を考えながら記述する課題プリントを作成した。学生の実習評価については、2015年度よりも2016年度の方が「教育・保育の技術」「実習日誌の書き方」「総合評価」において平均値が高かった。2016年度の授業内容が実習評価に結び付いたとは一概に言えないが、今後も学生の主体的な学びを促していく授業改善を検討していきたい。さらに、大学は学生の実践力を伸ばすために、講義での学びを保育現場で実践する機会を積極的に増やしていく必要がある。その際は、学生が4年間で総合的に学ぶ流れを組み立てた上で、一人ひとりに寄り添った教育を検討していくことを大切にしていきたい。

キーワード：教育実習指導、観察学習、日誌指導、実習不安、実習評価

はじめに

乳幼児の教育・保育に携わる幼稚園教諭や保育士などを目指して学んでいる学生たちにとって、実習は貴重な体験の機会である。その中でも、教育実習Ⅰは本学の学生にとって初めての实習であるため、期待や喜びと共に緊張や不安も大きい。その不安が実習での学びを消極的にしているのではないかと考え、2015年7月、学生が実習に対してどのような不安を感じているのかを記述する質問紙調査を行った(三澤, 2016)。その結果、本学の学生は現場に適應できるか、保育の実践が上手くできるかといった不安や、専門知識や保育理解が身に付いているかなどに関する不安が高かった。また、対人関係では保護者や乳児とのコミュニケーションが取れるかについて不安を感じていることが明らかになった。これらの実習不安は、保育現場から積極的に学ぼうとする意欲以前に、自分に自信がなく、注意や指導を受けて評価されることを恐れているのだと考えられる。栗原(2014)は教育実習Ⅰの前後に質問紙調査を実施し、学生は実習前に自分がどのように見られているかに不安を抱いていると考察している。また、保育技術については、自分が

出来るか否かの二極化で捉え、性急に保育技術を取り込もうとする傾向があるため、子どもの主体性が見えずに自らを主体に置かざるを得ないと述べている。この特徴を踏まえ、実習事前指導では①自分に向けられた方向性を、子どもに向けたものに変えること、②保育技術の表層的な習得ではなく、保育の目的と重層性を理解すること、③実習行為は計画、実践、省察、改善のサイクルで継続性をもって行われていると理解することが重要だと指摘している。そして、この3点を指導するために、観察実習は意義があること考察している。久保田(2016)は、1週間の観察実習でのエピソード記録を使ったグループ学習の発表を行い、学生が子ども理解や保育者の援助についての関心を深めたと報告している。しかし、栗原や久保田の研究における観察実習とは、教育実習Ⅰの一部であり、実習事前指導の授業内で観察学習を取り入れている訳ではなかった。正規の実習とは異なる1日単位の体験実習を研究した野上(2013)は、学生が体験実習を通して何を学んだかについて質問紙調査を行い、回答を「自分自身」「他者」「仕事」の категорияに分類した。「自分自身」については「自分から積極的に関わる」「事前に準備することの大切さ」「挨拶・マナー」「保育に関する技術の向上」などの課題を感じていた。「他者」では保育者の保育活動やコミュニケーションに関する回答であり、「仕事」では保育者の環境構成、配慮などの回答であった。野上の研究結果から、学生は1日体験実習であっても、学生自身や保育者、環境に関する学びを得ることができると推測される。学生が実習前に感じている不安を教育実習指導の講義だけで軽減することは難しいが、学生の保育現場での学習を交えた授業の展開を行うことで、学生により深い学びができるのではないだろうか。

1. 研究目的と方法

本学では、学生が教育・保育現場の実態を知り、実習前に学ぶ姿勢や心構えを身に付けることができるように、1年次の10月から12月にかけて週1回のフィールドワークを行っている。その後、2年次の9月に教育実習Ⅰ、3年次の8月に保育実習ⅠA(保育所)、9月に保育実習ⅠB(施設)、2月から3月にかけて保育実習Ⅱ(保育所)又は保育実習Ⅲ(施設)を実施し、4年次の5月から6月にかけて教育実習Ⅱを行っている(2016年度現在)。2年次前期に開講される教育実習指導の授業は、教育実習Ⅰに向けての指導を行っている。内容としては、実習の目的、実習書類の作成、学ぶ姿勢やマナー、守秘義務、電話の掛け方、オリエンテーションの訪問の仕方と内容、実習日誌と指導案の説明と書き方、手遊びや絵本の読み聞かせなどの保育技術の準備と実践、実習後の礼状の書き方、体調不良などで欠席した際の対応と連絡など、事務手続きから保育技術まで多くの指導が必要となるため、これまで現場での体験学習を取り入れる時間がなかった。また、指導案の作成については他の授業で学び、立案と実践を行っているが、日誌に関しては実習指導の授業が主となっている。しかし、講義形式では学生一人ひとりが理解できているか指導することが困難であった。これらの課題を改善するために、2016年度は教育実習指導の授業内で幼稚園での観察学習を行い、そこでの観察記録を日誌指導に結びつける授業を行うことにした。

本研究の目的は、教育実習指導で取り組んだ内容と幼稚園での観察学習の効果を考察すること

である。また、観察学習で学生が記述した記録から、日誌指導の課題を検討する。さらに、学生の実習評価に変化があったか分析を行う。実習評価は2015年度の学生74名と2016年度の学生79名の教育実習Ⅰの評価の平均値を算出し、T検定を用いて比較する。

2. 「教育実習指導」授業の検討

2.1 教育実習指導の授業内容の検討

小川ら(2009)は、実習評価と学生に対する質問紙調査の結果から、教育実習Ⅰの事前指導においては、学びの基礎となる①子どもとの関わり方、②言葉遣い、③実習日誌の書き方、④教材研究、⑤環境構成、⑥幼稚園教育要領の内容を十分に理解しておくことが必要であると考察している。また、大條(2016)は、教育実習の指導内容において、学生の実習不安が強くても勢いを持って実習に飛び込める指導方法をまとめている。①事前準備において充分な量の課題を、綿密に仕上げさせる、②自分の評価ではなく、目の前の子どもを大切にするという現場での本質的な目的を思い出させる、③感想と考察の違い、要点をつかむことなど、書く力を育てる、④社会人としての振る舞いを意識させる、⑤学生同士の共有の時間を効果的に取り入れることの5点である。これらの先行研究の実習指導で重視する内容を比較すると多少の違いはあるが、言葉遣いや振る舞いなどのマナーや姿勢に関する点、日誌を書くことに関しては一致している。

本学の教育実習指導の授業の目的は、①教育実習Ⅰのねらいや手順、手続きなどを理解すること、②実習生としての望ましい姿勢や態度を習得すること、③幼稚園教諭として、子ども理解や支援の仕方等についての理解を深めることである。2015年度は45分授業を15回、2クラス展開で行った(1クラス45名前後)。内容は、①授業と実習の流れの説明、②実習の目的、実習書類の作成、③研究題目の検討、④日誌の配布と説明、⑤幼稚園の1日の流れに関するDVDの視聴と日誌を書く練習、⑥日誌の書き方の修正と解説、⑦カウンセリングマインド、電話のかけ方(実習オリエンテーションの連絡)、⑧実習オリエンテーションの訪問日の確認と目的の説明、⑨訪問担当教員への挨拶の説明、実習書類確認と返却、⑩欠席連絡の方法、守秘義務、⑪保育技術の準備、⑫保育技術の練習、⑬実習中の姿勢や態度に関する説明、⑭実習後の日誌提出と面談の説明、⑮礼状の書き方とまとめである。

実習書類の作成とは、実習生調書と誓約書の記入であるが、確認すると間違いが見つかることが多いために1回の授業では終わらなかった。日誌の書き方については、幼稚園での1日の流れのうち、登園、保育活動、昼食の3場面の映像を視聴し、内容を日誌と同じ様式で記述した。しかし、映像では全体の保育環境が見えないことや保育教材や援助内容が十分に確認できないことが課題であった。その翌週に、教員が作成した記入見本のプリントを配布し、解説を行っている。実習中のマナーや姿勢に関する説明は、挨拶、身だしなみ、時間厳守、報連相、学ぶ目的などに関して講義を行った。しかし、一方的な説明では学生の意識に結び付きにくく、実習先で求められる服装や髪型などの身だしなみについても抽象的な表現では学生の理解に個人差があると感じられた。授業環境の課題としては、45分ずつで2クラス行う授業であるために、学生の出入り

や出席確認、書類の配布と回収で講義時間が足りなくなってしまうことや、単位不足で今年度の実習参加ができない学生も受講していたために、書類や日誌の作成をしない場合の課題プリントを準備することもあった。

これらの課題を改善するために、2016年度は学生が授業時間外で実習生調書をデータで作成することにした。また、日誌の指導については、学生が保育の中で記録をとる体験をすることによって、実習に向けた意欲を持てるように幼稚園での観察学習を取り入れた。身だしなみについては、学生が分かりやすいように写真を載せた資料を作成し、何故このような身だしなみが相応しいのかを学生自身が考える方法で行った(資料1)。授業環境は、学外への移動時間を確保するために、2クラスで90分授業を8回行うことに変更した。また、受講できるのは今年度の実習参加できる学生のみとした。

授業内容は、①授業と実習の流れの説明、実習費等の事務手続きの説明、観察学習の説明、②実習の目的、研究題目の検討、実習書類の提出、確認、③梅光学院幼稚園での観察学習、④電話のかけ方、日誌の説明と書き方、⑤身だしなみ・マナー講座、カウンセリングマインド、訪問についての説明、⑥私立幼稚園連盟の講演、⑦保育技術(手遊び・絵本等)の準備・発表、⑧訪問担当教員の説明、欠席連絡方法、守秘義務、実習後の流れ、礼状の書き方である。

2.2 観察学習の概要

2016年度は、教育実習指導の授業内で梅光学院幼稚園での観察学習を行った。日時は、2016年4月26日、5月10日、5月17日、5月24日、5月31日の5日間で、Aクラスは9時から10時30分、Bクラスは13時25分から14時55分であった。子どもたちと保育への影響を考え、1回の参加学生は約10名と担当教員が1名引率した。参加者は教育実習指導の受講者92名(Aクラス55名、Bクラス37名)であった。

観察学習の目的としては、①教育実習Iに向けて、実習生としての姿勢と心構えを養うこと、②実践的な場で学ぶことによる、学生の子ども理解の向上を図ること、③幼稚園への関心を深め、ボランティア活動に参加する学生を増やすこと、④子どもの様子を知り、6月の保育発表イベントに向けてのイメージを豊かにすることであった。内容としては、幼稚園の保育を見学し、観察の姿勢・視点と記録方法を学ぶことである(表1)。

参加する際の服装は、ジャージとエプロン(名札付き)、持ち物は筆記用具、メモ帳、上靴、

表1 観察学習の日時と流れ

日程	時間 (Aクラス)	時間 (Bクラス)	当日の流れ
4月26日(火)	9:00～9:15	13:25～13:40	①大学集合、出欠確認、バスで幼稚園に移動
5月10日(火)	9:15～9:30	13:40～13:55	②幼稚園到着、見学の心得、観察の姿勢・視点の説明
5月17日(火)	9:30～9:45	13:55～14:10	③各クラスに3～4人ずつ分かれて保育を見学
5月24日(火)	9:45～10:15	14:10～14:40	④別室に移動し、観察内容を記入
5月31日(火)	10:15～10:30	14:40～14:55	⑤バスで幼稚園から大学に移動、解散

腕時計とし、実習に向けた服装の準備ができるようにした。身だしなみとしては、黒髪（長髪は結ぶ）、爪を切ること、カラーコンタクトや化粧をしないこと、ピアスなどのアクセサリーは付けないことも事前に説明した。また、観察学習前に説明した観察の流れと注意事項については、以下の通りである。

- ①園の先生方や保護者に会った時、保育室に入る時も、自分から挨拶すること。
- ②子どもと遊びに行くのではない。観察が目的なので、勝手な行動をしないこと。
- ③見学中の私語は禁止。子どもたちが安心して保育に集中できるように、目立つ格好や姿勢はしないこと。
- ④観察は保育室の後方で、保育に影響のない場所で行う。
- ⑤床に座って子どもの目線になる。足を伸ばしたり、猫背になったりしないこと。
- ⑥メモを取る際は、子どもたちが書いていることを気にしないようにさり気なく書く。
 - ・保育室の環境構成（保育者と子どもの位置、物の配置、保育で使用した物）
 - ・子どもの活動（子どもの活動・行動・言葉・様子・感情、歌や手遊び等のタイトル）
 - ・保育者の援助、指導の留意点と配慮（保育者の言葉掛け・対応）
- ⑦15分観察したら、お礼を言ってから退室する。
- ⑧園舎の端にある部屋に集合し、観察記録を記入する（教育実習日誌の記録用紙）。
- ⑨時間になったらバスに乗るので、記録が途中の場合は、次週の授業で提出すること。

当日に説明した内容は以下の通りである。

- ①大学で出欠確認をする際に、身だしなみ（髪、服装、アクセサリー）の確認。
- ②事務所での挨拶の説明と実践。
- ③別室に移動し、観察の方法と流れの説明。
- ④観察記録見本（資料2）と日誌の配布、日誌の内容の説明。
- ⑤メモと筆記用具を持ち、各保育室に移動。
- ⑥15分間の観察。
- ⑦別室に戻り、観察内容を記入。
- ⑧事務所での挨拶とお礼を言う。

観察を終えて、学生が記述した記録を添削した中で、指導を行ったのは以下の22項目であった。項目を分類したところ、「基本的な記述方法」「記録の不備や不足」「専門的な保育用語」の3つにまとめられた。

「基本的な記述方法」

- ①平仮名での記述や誤字（挨拶、排泄、拭く、鞆などを平仮名で書いている）。

- ②文章の形式の違い（文章が左詰めになっていない、文章が斜めになっている）。
- ③図を定規を使わずに書いている。
- ④話し言葉や擬音語を使用している（「～だから」、「ひそひそと」）。
- ⑤文章でなく会話文で書いている（挨拶を「おはよう」と書くなど）。
- ⑥文章に記号を使用している（「どうしたの?」「良かったね!」「保育室→園庭」など）。
- ⑦記録に丁寧語や尊敬語を使っている（「お話を聞く」、「お集まりをする」など）。
- ⑧一文の内容が多い（「手洗い・排泄に行き、水分補給をしてから座る」など）。
- ⑨文章が過去形や進行形になっている（「歌った」「聞いている」など）。

「記録の不備や不足」

- ⑩図の内容が不十分（物の名称や保育者や実習生の場所が書かれていない）。
- ⑪記入欄の違い（環境構成に関する内容を保育者の援助欄に書くなど）。
- ⑫各記入欄の時間軸が合っていない（子どもの活動と保育者の援助欄がズレている）。
- ⑬文章ではなく、箇条書きをしている（「・自由遊び」など）。
- ⑭具体的に記述されていない（手遊びや絵本のタイトルが未記入など）。
- ⑮文章の主語の違い（子どもの活動欄の文章が保育者になっている）。
- ⑯行動のみが書かれており、援助や配慮の意図が書かれていない。
- ⑰時刻が書かれていない。

「専門的な保育用語」

- ⑱保育専門用語の違い（排泄を「トイレ」、降園を「帰る」と書いているなど）。
- ⑲援助の捉え方の違い（「怒る」、「叱る」など）。
- ⑳「～させる」「～してあげる」などの強制や上から目線の表現。
- ㉑子どもの姿を否定的に記述している（「できない子」「言うことを聞かない子」など）。
- ㉒名称の表現の違い（保育者が「先生」、子どもが「児童」、活動が「勉強」など）。

観察したのは15分間だったが、学生の記録の修正内容は基本的な文章の書き方の間違いが多く、一人ひとりの保育の捉え方にも違いが見られた。日誌の書き方以前に、基本的な記述の指導が必要であることが明らかになったので、今後は観察学習前の授業で日誌の基本的な記述の指導と専門的な保育用語の解説を取り入れたい。

3. 教育実習Ⅰの実習評価の比較

2016年度の観察授業を行った効果を検討するために、2016年度の教育実習Ⅰの実習評価を2015年度の教育実習Ⅰの実習評価と比較した。まず、実習評価の7項目「実習の態度」、「環境への関心と構成」「教諭（保育者）への関心と理解」、「子どもへの関心と理解」、「教育・保育の

技術]、「実習日誌の書き方」、「研究意欲・態度」と総合評価の平均値を算出するために、評価基準の A～E の 5 段階を数値に置き換えた。A「非常に優れている」を 5、B「優れている」を 4、C「適切である」を 3、D「努力を要する」を 2、E「成果が認められない」を 1 とした。2015 年度の実習評価の平均値は、「実習の態度」3.64、「環境への関心と構成」3.32、「教諭（保育者）への関心と理解」3.38、「子どもへの関心と理解」3.34、「教育・保育の技術」2.97、「実習日誌の書き方」2.89、「研究意欲・態度」3.25 であり、総合評価は 3.22 であった。2016 年度の実習評価の平均値は、「実習の態度」3.77、「環境への関心と構成」3.56、「教諭（保育者）への関心と理解」3.63、「子どもへの関心と理解」3.55、「教育・保育の技術」3.24、「実習日誌の書き方」3.23、「研究意欲・態度」3.51 であり、総合評価は 3.60 であった。全ての評価において、2015 年度よりも 2016 年度の平均値が高かった。

次に、2015 年度と 2016 年度の各項目の平均値に有意な差があるか T 検定で比較した。その結果、「教育・保育の技術」「実習日誌の書き方」「総合評価」において 2015 年度よりも 2016 年度の方が有意に高いことが示された（表 2）。しかし、この結果が授業の効果であると一概に解釈することはできない。有意な差が見られなかったとしても、全ての項目において 2016 年度の学生の平均値が高いことは、元々 2016 年度の学生の実習能力が高かった可能性も考えられるからである。

表 2 年度別での実習評価の平均値の差異

	2015 年度 (n=74)		2016 年度 (n=79)		F 値	p 値
	平均値	(SD)	平均値	(SD)		
実習の態度	3.64	(0.94)	3.77	(0.89)	0.33	n.s.
環境への関心と構成	3.32	(0.78)	3.56	(0.75)	0.00	n.s.
教諭への関心と理解	3.38	(1.00)	3.63	(0.87)	1.67	n.s.
子どもへの関心と理解	3.34	(0.88)	3.55	(0.75)	0.31	n.s.
教育・保育の技術	2.97	(0.86)	3.24	(0.70)	1.54	*
実習日誌の書き方	2.89	(1.04)	3.23	(0.88)	0.69	*
研究意欲・態度	3.25	(0.94)	3.51	(0.74)	2.89	n.s.
総合評価	3.22	(0.85)	3.60	(0.74)	0.23	**

n.s.=not significant, *:p<.05, **:p<.01

また、教育・保育の技術の指導に関しては、今回の授業では教員の前で実践するだけであったが、今後、子どもで行う授業を検討していきたい。橋本（2015）は、実習で「保育実践力」を身に付けることが重要であるとし、①指導計画を作成する力、②保育を展開する力の学びについて考察している。指導計画については、子どもの姿を詳細に予想しながら展開を考え、事前に模擬保育やシミュレーションを行い、一通りの流れつかんでおくことが重要だとしている。また、保育の展開については、適切な言葉掛けや関わりを学び、分かりやすく伝えるように意識することが重要であると考察している。しかし、まだ実習前の学生にとっては、子どもの姿を具体的に

予想することが困難であるため、保育の計画や実践を授業内で具体的にを行うことは難しい。今後、観察学習の内容についても日誌指導で終わらずに、子どもの姿や保育の展開を学ぶ機会に繋げていきたい。

おわりに

本研究は、教育実習指導の授業内容と幼稚園での観察学習の効果を考察することを目的とした。2015年度の課題であった授業時間の確保と実習における身だしなみや姿勢、日誌指導などを意欲的な学びにするために、2016年度は授業時間と回数を変更し、幼稚園での観察学習と日誌の記録の練習を結び付けた。身だしなみや姿勢は学生が意味を考えながら記述する課題プリントを作成した。観察学習では、学生が記述した記録から指導をした項目を分類したところ、「基本的な記述方法」「記録の不備や不足」「専門的な保育用語」の3つにまとめられた。また、学生の実習評価については、2015年度よりも2016年度の方が「教育・保育の技術」「実習日誌の書き方」「総合評価」において平均値が高かった。2016年度の授業内容が実習評価に結び付いたとは一概に言えないが、今後も学生の主体的な学びを促していくための授業改善を行っていく必要がある。

2017年度の教育実習指導の授業は、観察学習の5日間以外の10回を90分授業で行うことを検討したい。観察学習前に日誌の書き方の指導を行い、基本的な文章表現や保育の専門用語の説明を丁寧に行うことで、学生の書く力を育てていく。観察学習については、4月末から5月にかけて実施していた日程を、5月中旬から6月の園生活に慣れた時期に変更する。記録を書く30分を観察時間とし、各年齢のクラスを15分ずつ回るようにすることで、子どもの姿をイメージできるような学びとなるだろう。記録は次週までの課題とし、日誌の指導と合わせて解説を行う。毎回の授業内では保育技術の発表の時間を設け、全員が手遊びや絵本紹介を行うことで、一人ひとりが保育技術と自信を身に付けられるようにする。また、私立幼稚園連盟の講演については、実習前の学生に合わせた内容を依頼する。学生間での学びの共有ができる時間を確保し、実習を終えた先輩から心構えや事前準備を知る機会を設けていく。

中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」（2012年8月28日）では、「教科や教職に関する高度な専門的知識や、新たな学びを展開できる実践的指導力を育成するためには、教科や教職についての基礎・基本を踏まえた理論と実践の往還による教員養成の高度化が必要である」と述べられており、大学の講義と教育・保育現場での実践を繰り返すなかで知識と指導力を高める必要があるとしている。その為、大学は学生が年間を通じて講義での学びを保育現場で実践する機会を積極的に増やしていく必要がある。その実践は正規の教育・保育実習だけではなく、継続的なボランティアの時間を確保するためのカリキュラム編成や体験授業の検討も含まれるだろう。授業外で学生がグループ参加できるボランティアサークルの発足、学生の対人コミュニケーション不安の高い保護者や乳児の参加している親子サークルなどでのボランティアの推進なども資質能力の総合的な向上につながると考えられる。

山崎ら（2013）は、授業を活用した2年次のグループ実習を計画し、2年次までの幼稚園にお

ける実習経験のほとんどない学習から3年次の基礎実習における保育の実際の学習への段差を縮めるために、学生の基礎実習を見通した「大学4年間の総合的実習プログラム」を開発している。本学においても、教育実習指導の授業の内容を検討するだけでなく、学生が4年間で総合的に学ぶ流れを組み立てた上で、各授業が連携しながら教育を行っていく必要がある。また、学生の実習不安を解消する方法として、清水ら（2014）が入学時の学生のストレスおよびストレスコーピングに関する質問紙の結果と教育実習評価との関連を明らかにした研究を活用していきたい。調査の結果では、入学時のストレス調査の結果に基づいてストレスマネジメント教育を行うことが、今後の学びへの適応を促し、実習での高評価につながることを示唆している。このように大学全体の教育を組み立てながらも、学生一人ひとりに寄り添った教育を検討していく2つの側面を大切にしていきたい。

参考文献

- ・大條あこ（2016）「幼稚園教育実習における指導と学生の学び—開始から6年目を迎えて—」桜美林論考．心理・教育学研究 7, 45-57.
- ・小川友恵, 山本弥栄子, 柴本枝美（2009）「教育実習指導のあり方（1）～教育実習1の結果をふまえて～」大阪健康福祉短期大学紀要 8, pp.143-157.
- ・久保田貴子（2016）「エピソード記録を通して学ぶ～保育科一年生の「観察実習」と「教育実習指導」の授業で～」初等教育—研究と実践—, 42, pp.22-33.
- ・栗原ひとみ（2014）「幼稚園教育実習Ⅰにおける観察実習の意義：実習前後アンケートから探る」植草学園大学研究紀要 6, 69-78.
- ・清水里美, 志澤康弘, 藤本史, 金子真理（2014）「短期大学生のためのストレスマネジメント教育における諸問題：幼稚園実習評価および学生による履修カルテの自己評価と関連づけて」平安女学院大学研究年報（14）, 37-51.
- ・野上俊一（2013）「保育者志望学生は幼稚園や保育所での体験実習で何に気づくのか」日本教育心理学会総会発表論文集（55）, 227.
- ・橋本希義（2015）「幼稚園教育実習生の保育実態からとらえた保育実践力：幼稚園教育実習の現状と課題」幼児教育研究（1）, 31-36.
- ・三澤恵（2016）保育者養成校と保育現場の保育連携活動における現状と課題：学生の实習とボランティアに関する調査梅光学院大学論集（49）, 62-71.
- ・山崎奈美, 岩立京子, 吉田伊津美, 福元真由美, 水崎誠, 櫻井眞治, 鳴海多恵子, 田代幸代, 山田有希子, 井口恵美, 中野圭祐, 大澤ちづる, 吉川和希, 町田理恵, 山田一美, 田中一晃, 神山雅美, 石村類, 八木亜弥子, 田村秀子, 児玉祥子（2013）「大学4年間の総合的実習プログラムの開発：講義と実習の相互関連を図った教育内容の開発（プロジェクト研究）」東京学芸大学附属学校研究紀要：音楽科・英語科 40, 73-84.

資料1 実習の身だしなみに関するプリント

実習の身だしなみ 女性編 (教員用)

【髪】


- ・毛染めをしている場合は黒にする。
- ・長い髪を結んで、耳のところに少しだけ出したら、全部結ぶ。
- ・前髪は目にかからないくらいで、長い時はヘアピンを後ろに耳にかける。

・集団保育の中で目立たない自然な色にする。

- ・学びに行くので、オシャレはしない。
- ・視野を広くして急な事態に対応できるように。
- ・食べ物などに髪が入らないように。
- ・表情がよく見えるように。乳児にとってはヘアピンが危ない。
- ・お辞儀の度に髪が乱れないように。

【顔・手】

- ・素顔かナチュラルメイク！ 粉系はつけない！（施設は素顔でと言われた）
- ・アイライン、つけまつげ、カラーコンタクトもしないように。
- ・爪は短く切っておく！ 付け爪、マニキュア、アクセサリーは禁止。




- ・実習はオシャレをすることでいい。
- ・化粧をした顔に乳児が触れて、その手を口に入れてしまわないように。
- ・健康的で清潔感のある顔で、子どもや保護者に押し、安心感や信頼感を与える。
- ・児童養護施設では、女子が化粧に興味を持ち、男子が好意を抱いたりしないように
- ・爪で子どもが怪我をしないように、常に安全で清潔にしておく。

【服装：事前訪問、実習の行き帰り】

- ・ブラウスの色は白、色付き、フリル、えりなしでないもの。
- ・ブラウスの下は、色付きや絞柄のシャツだと通ける。
- ・スーツの色は黒か紺。

・学ぶ姿勢として、服装や行動は礼儀正しくするのが基本。



【服装：実習中】

- ・上下ジャージで全身が暗すぎず、派手でない色。
- ・夏はTシャツや半袖シャツ(派手な色や絞柄は×)。
- ・外に行くとき以外は、エプロンを着ていた。
- ・着替えのジャージ、エプロンは3着は必要！
- ・全部のエプロンに名刺をつけた(乳児の場合、安全ピンは危ない)。
- ・ジャージ以外の動きやすい服装でと言われ、ボロシャツにチノパンやストレッツパンツを着た。

・集団保育の中で目立ったり、威圧感を与えないように。

- ・子どもの対応に柔軟に動ける服装。
- ・子どもが怪我をしないように、固いもの、尖ったものは使わない。

実習の身だしなみ 男性編 (教員用)

【髪】

- ・毛染めをしている場合は黒にする。
- ・眉、耳、髪にかからないように短く。
- ・整髪料は付けないように！

・集団保育の中で目立たない自然な色にする。

- ・学びに行くので、オシャレはしない。
- ・視野を広くして急な事態に対応できるように。
- ・表情がよく見えるように。

【顔・手】

- ・素顔で眉毛は細く剃らずに、元々の自然な形に整えておく。
- ・カラーコンタクトをしないように。
- ・爪は短く切っておく！ アクセサリーは禁止。

・実習はオシャレをすることでいい。

- ・健康的で清潔感のある顔で、子どもや保護者に押し、安心感や信頼感を与える。
- ・爪は子どもが怪我をしないように、常に安全で清潔にしておく。

【服装：事前訪問、実習の行き帰り】

- ・ワイシャツの色は白、色付きやストライプ柄でないもの。
- ・ワイシャツの下は、色付きや絞柄のシャツだと通ける。
- ・スーツの色は黒か紺、ダークグレーの無地。

・学ぶ姿勢として、服装や行動は礼儀正しくするのが基本。



【服装：実習中】

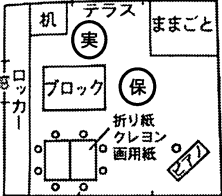
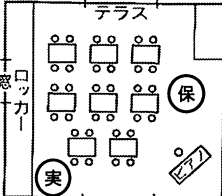
- ・上下ジャージで全身が暗すぎず、派手でない色。
- ・夏はTシャツや半袖シャツ(派手な色や絞柄は×)。
- ・外に行くとき以外は、エプロンを着ていた。
- ・着替えのジャージ、エプロンは3着は必要！
- ・全部のエプロンに名刺をつけた(乳児の場合、安全ピンは危ない)。
- ・ジャージ以外の動きやすい服装は、ボロシャツにチノパンやストレッツパンツ。

・目立ったり、威圧感を与えないように。

- ・子どもの対応に柔軟に動ける服装。
- ・子どもが怪我をしないように、固いもの、尖ったものは使わない。

資料2 観察記録見本

教育実習記録 <記入見本>

○月 ○日 ○曜	天気	気温 °C	実習生名 ○○ ○○
クラス名	○○ 組 ○ 歳児	出席 男子 名 女子 名	欠席 男子 名 女子 名
指導教員名	保育時間		
週の目標			
本日のねらい	クラス		
	実習生		
時刻	環境構成と子どもの活動		保育者の援助、指導の留意点と配慮
9:30	<p><保育室></p> 		<ul style="list-style-type: none"> ・全体を見渡せる場所で、一人ひとりが楽しく遊べるように見守り、遊びに参加する。 ・片付けの時間になったことを伝え、子どもたちと一緒に片付ける。 ・一人ひとりの排泄状況を確認する。 ・椅子に座って、水分補給をするように声を掛ける。
9:40	<ul style="list-style-type: none"> ○室内で自由遊びをする。 ・ままごと、積み木、パズル、ブロックなど ○片付けをする。 ○排泄、手洗いをする。 ○好きな場所に座る。 ○水分補給をする。 ○手遊び「はじまるよ」をする。 ○朝の集まり ・「おはようのうた」を歌い、朝の挨拶をする。 ・名前を呼ばれたら返事をする。 ・一日の流れを聞く。 		<ul style="list-style-type: none"> ・手遊び「はじまるよ」をしながら、全員が集まるのを楽しく待てるようにする。 ・「おはようのうた」を弾き歌いしながら、子どもたちの歌う姿勢や声の大きさ、楽しく歌えているかを観察する。 ・出欠、体調確認をする。 ・一日の活動の見通しが持てるように、分かりやすく伝える。
13:55	<p><保育室></p> 		<ul style="list-style-type: none"> ・帰りの支度をして、椅子に座るように言葉掛けをする。 ・忘れ物がないか確認する。 ・一人ひとりの服装や怪我の確認をする。 ・手遊び「やまごやいっけん」をする。 ・絵本「3びきのやぎのがらがらどん」を読み聞かせする。 ・明日の活動や連絡事項について話す。 ・「おかえりのうた」を弾き歌いする。 ・「さようなら」の挨拶をする。 ・明日の予定を伝え、明日の登園に期待が持てるような言葉掛けをする。
14:10	<ul style="list-style-type: none"> ○降園準備をする。 ・タオルと連絡帳を鞆に入れる。 ・水筒と上着を机に置く。 ○帰りの集まりをする。 ・手遊び「やまごやいっけん」をする。 ・絵本「3びきのやぎのがらがらどん」を見る。 ・保育者の話を聞く。 ・「おかえりのうた」を歌う。 ・「さようなら」の挨拶をする。 ○バスを利用する子どもは降園する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・バスに乗る子どもの名前を確認する。 ・バス担当の保育者に連絡事項を伝え、引き継ぐ。